設楽発掘通信

No.5
平成２６年
１０月１日号

津具中学校の生徒の皆さんが体験発掘！

西地・東地遺跡体験発掘の様子

西地（にしじ）・東地（ひがしじ）遺跡（いせき）（大名倉所在）では、１４Ｂ区の発掘調査が進められており、縄文時代から江戸時代までの遺構（いこう）と遺物が発見されています。この調査成果は、十月四日に開催する地元説明会で多くの皆様に見ていただくことになります。今年度の地元説明会はこれで終わりとなりますが、来年度以降の発掘調査でも何度か地元説明会を開催する予定ですので、ご期待ください。

さて、西地・東地遺跡の発掘調査では、去る九月二十二日に津具中学校の全校生徒（三十一名）が発掘調査を体験学習するイベントが行われました。一時間余りという短い時間でしたが、生徒の皆さんは実際に地面を掘って土器や石器などが出土する場面を体験し、この設楽町でも古くから人々の営みが行われていたことに驚き、学習することができました。この企画は津具中学校からのご要望にお応えする形で実現したもので、今後も発掘調査の進行に支障が生じない範囲で、このような見学会や体験発掘などの企画を受け付けていきたいと思います。ご希望の場合はぜひ一度、愛知県埋蔵文化財センター（今年度担当：鈴木０８０－１５７１－４９８２）までご相談ください。

六月から開始されました万瀬遺跡（まんぜいせき）（川向（かわむき）所在）の発掘調査はいよいよ終盤を迎え、九月二十七日に遺構の全景写真を撮影いたしました。今月中には調査は終了する予定です。調査に際しては多くの皆様のご支援とご協力を賜りまして、ありがとうございました。なお、西地・東地遺跡の発掘調査は引き続き十二月頃まで行う予定です。

（愛知県埋蔵文化財センター　鈴木正貴）

西地・東地遺跡の調査について

大名倉地区の西地・東地遺跡の調査では、表土剥ぎ（遺跡に影響しない表面の土を取り除く作業写真１）のかたわら、作業員さんによる丁寧な遺構検出（昔の人が活動した痕を探す為、地面を薄く削っていく作業　写真２）を行なっており、続々と戦国時代末～江戸時代の焼き物や縄文時代の土器や石器が出土しております。江戸時代の焼き物には、内耳鍋（ものを煮炊きするための土鍋）や擂鉢（胡麻や豆をすり潰すための陶製の鉢）、碗等が出土しており、日常の生活道具が多いことが特徴です。

縄文時代の遺物について紹介します。写真３は縄文時代後期初頭（今から約４５００年前）の土器、写真４の石鏃（石製の矢じり）は、黒曜石（長野県の和田峠付近等が原産地として有名）で作られています。写真５は石匙（動物の皮や肉を割くナイフ）、写真６は磨製石斧（磨いて仕上げられた斧で、木を伐るための斧）です。

警察の現場検証にも似た細かい作業の積み重ねを行なうことによって、昔の人達の足跡を探っていきます。

（ナカシャクリエイテブ株式会社　樋田泰之）

写真１　表土剥ぎ

写真３　縄文土器

写真４　石鏃

写真２　遺構検出

写真６　磨製石斧

写真５　石匙

万瀬遺跡の調査について

六月から調査を開始した万瀬遺跡ですが、空撮（掘り終わった遺跡を空から撮影する）も完了し、調査もほぼ終了となりました。八月号で、万瀬遺跡は谷地形だと報告しましたが、その谷部分にトレンチ（試し掘り）を入れたところ、縄文時代のものと思われる石器（写真２）が一点出土したのみでした。よって、谷埋土の下には人が生活していた痕跡は希薄だと想定しています。

前号でお伝えした調査区北西部に密集する縄文時代の配石遺構は、上面の石の取り外しがほぼ完了し、一部の配石遺構の下からは、また集石が確認されました。引き続き、記録を取りながら石を取り外し、下部構造を探っていきます。

その他、近世のものと思われるピット（住居などの柱痕、写真３）もいくつか見つかっており、江戸時代初期頃からの人々の生活の痕跡が窺われます。六文銭（写真４）も見つかっていることから、お墓などもあった可能性があります。正直なところ、このような急斜面地でも人々の生活の痕跡が確認できることに驚きました。苦労して土地を改変し、生活の場を確保していたのでしょう。

（ナカシャクリエイテブ株式会社　廣瀬正嗣）

写真１　谷トレンチ掘削風景

写真３　ピット　断面写真（半分に割った状態）

写真２　谷トレンチ出土　石器

写真４　六文銭　出土状況

空撮とは？

前頁、「万瀬遺跡の調査について」の文中で、「空撮」という言葉を使用しました。空撮とは「空中写真撮影」の略で、読んで字のごとく空から遺跡を撮影する作業です。現在調査を行っている万瀬遺跡をはじめ、発掘調査が行われる遺跡は、後に何らかの理由で失われてしまうものがほとんどです。そのため、私たち調査員は、調査の様々な場面で逐一写真を撮り、記録を残します。その中でも重要な場面に差し掛かった時、ラジコンヘリや高所作業車を使用し、遺跡全体の風景を上空から撮影します。この写真を「全景写真」と言います。「全景写真」は、遺構がどのように配置されているか、周辺の環境はどうか、など文章で説明するのが難しい事柄を一目で第三者に伝えることができます。そして、報告書や展示会などで、将来的に活用される頻度が最も高い写真でもあります。よって、「空撮」は発掘調査の数ある工程の中でも、メインイベントと言えます。万瀬遺跡では、全ての遺構の掘削が完了した後、空撮を行いました。

今回はＵＡＶという機械にカメラを積んで空撮を行いました。ＵＡＶは、パソコンで設定した飛行ルートを自動で飛ぶヘリコプターで、風などの影響を受けても、位置と速度および姿勢を自動修正し、手軽に操縦できるのが利点と言われています。

下の写真が、万瀬遺跡を上空から撮影した全景写真です。私たち調査員は、この写真を見ると、やっとここまで来たかと一安心するものです。（ナカシャクリエイテブ株式会社　廣瀬正嗣）

UAVでの空撮

万瀬遺跡空撮写真

設楽発掘通信 No.5

平成２６年１０月１日号

編集・発行　公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

〒４９８-００１７ 愛知県弥富市前ヶ須町野方８０２の２４

電話 （０５６７）６７-４１６１【管理課】 ４１６３【調査課】

ホームページ http://www.maibun.com

Facebook https://www.facebook.com/maibunaichi

Twitter https://twitter.com/aichi_maibun

印刷・協力　ナカシャクリエイテブ 株式会社